

令和 7 年度 第 1 回荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

【日 時】 令和 7 年 5 月 15 日 (木) 14:00 ~ 15:30

【場 所】 荒尾市役所 11 号会議室

【出席委員】 6 ページを参照

【事務局】 橋本総務部長、吉田総合政策課長、
林田課長補佐兼政策推進室長、末吉

記録者：総合政策課 末吉

1 開会

総合政策課吉田課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

2 委嘱状交付

委員に委嘱状の交付を行った。

3 会長・副会長の選任

荒尾市総合計画審議会条例第7条第1項により、委員の互選にて会長及び副会長を各1名置くこととなっており、会長に田中委員、副会長に高木委員が選出された。

4 会長挨拶

田中会長が挨拶を行った。

コロナ禍を経て日常が戻りつつある中、第7次総合計画の策定にあたっては、市役所職員だけでなく、市民の方、市外から働きに来ている方、いつかは市に帰ってきたいと考えている方も含めた幅広い計画を目指すつもりである。皆さんのご協力をお願いしたい。

5 総合計画の策定についての諮問

総合計画の策定について、市長より荒尾市総合計画審議会に諮問が行われた。

6 市長挨拶

浅田市長が挨拶を行った。

日頃の市政への支援や総合計画審議会委員を引き受けていただき感謝している。社会が大きく変化する中で総合計画が節目を迎え、市民の多様な意見や課題を取り入れた新たな計画を作りたいと考えている。

今後のまちづくりでは、一点目として、都市機能を中心地と荒尾駅周辺の二拠点に集約し、公共交通を整備して利便性を高めること、二点目として、デジタル化で市民生活の利便性を向上しスマートシティを目指すこと、三点目として、炭鉱の町としての歴史を大切にしながらゼロカーボンに積極的に取り組み、環境への貢献を地域ブランドとすることを重視している。

市役所としては現場を大切にし、市民と協働して地域課題の解決に努めていく。新しい総合計画づくりに全庁で取り組むので、引き続き委員の協力をお願いしたい。

7 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、田中会長が以降の議事を進行した。

(1) 第6次荒尾市総合計画－改訂版－について

林田課長補佐が、資料1に基づき説明を行った。特に質疑はなし。

(2) 第7次荒尾市総合計画(仮称)の策定方針案及び今後のスケジュール (案)について

末吉が、資料2及び参考資料3に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

『主な意見等』

- 少子化と人口減少が進む中で、あらおファンを増やす政策に力を入れてほしい。人口減少を当たり前とせず、増やす意気込みで頑張ってほしい。
→市内の総人口は減少しているが、ふるさと納税や荒尾ふるさと会員制度などを通じて、荒尾市と関わりを持つ「関係人口」は増加傾向にある。今後もこうした関係人口を増やすことが重要であり、その基盤として観光地の魅力向上が必要だと考えている。(事務局)
- 実際に半年間の育児休業を経験したが、労働基準で守られていないと感じることがかなりある。そのために子育てとの両立が難しくなり、離職やパートへの転向、さらには子どもを持つこと自体を諦めるケースがある。荒尾市で労働環境が整えば、多くの人が荒尾市で働きたい、住みたいと感じ、人口増加や地元の職場選択にもつながると考えている。
→例えば荒尾市に住みながら大牟田市で働いている方のように、さまざまな立場や思いのある方の生の声もぜひ聞きたい。この場に限らず、ワークショップなどにも積極的に参加し、情報共有や口コミで周囲の方も誘っていただけるとありがたいので、今後ともご協力をお願いしたい。(会長)
- ライフステージごとの施策として、乳幼児期から学生期に地元への愛着を育てることで転出抑制やUターン促進を目指す取り組みは、これまでも目標にされてきたが、なかなか実現が難しいのが現状だと思う。雇用の創出や地域経済の活性化とも関わる重要な課題なので、引き続き何とか工夫して取り組んでほしい。市長公約の6番に雇用の創出と地域経済の活性化とある。大変難しいと思うが、ぜひ何とかして考えていただきたい。
→愛着形成は少子化対策の一環として進めており、効果が現れるまでには時間がかかる取り組みだと考えている。市としてできることに加え、地域での交流など様々な形で広く取り組みを支えてい

きたい。また、その重要性は総合計画にも盛り込んでいきたい。
(事務局)

→市長公約 6 番の「仕事」については、暮らしやすい環境だけでなく仕事の確保も重要と考えている。企業誘致や市内の雇用創出に加え、市外で働く人の支援も必要であり、今後も自治体間で連携しながら取り組んでいきたい。 (事務局)

→雇用については、多様な働き方を公民連携で考えていくことも必要。荒尾市の中でチャンスが生まれて、チャレンジできる人がたくさん増えるように進めたい。(会長)

○ 資料の人口推移を見ると一時的に増加している部分もあり、その理由については分からぬ点もあるが、これまでの政策を踏まえて総合計画が策定されていることは理解している。自身としては「訪れたいまち」を維持したいと考えており、観光の経済波及効果は大きくはないものの、今後はさらに観光に力を入れるべきだと思う。若い世代の意見を取り入れ、SNS や YouTube など新しい方法を活用した観光活動も進めてほしい。また、ゼロカーボンの推進については、長期的な視点で戦略や成果目標を設定し、まずは官が率先して EV や地域公共交通など新しい取り組みを進めていくべきだと考えている。

→人口変動の大きな要因は石炭の町からの産業転換で、人口が減少してきた。一方で、市内に桜山団地や八幡台団地といった住宅ができ、近隣長洲町の工場新設などによって一時的に人口が増加した時期もあったが、昭和 60 年以降は再び減少傾向が続いている。
(事務局)

→観光については、総合計画の中でも観光振興が重要な位置に占めている。今後もワークショップや調査等を通じて、人を呼び込む取組を重視していきたい。(事務局)

→ゼロカーボンに向けて、荒尾市も国と同様に 2050 年を目標に取り組んでおり、公用車については買い換えのタイミングで EV への切り替えを進めている。今年度は、ごみ収集用の EV パッカー車を導入予定で、恐らく九州でも初の取組になる見込みである。
(事務局)

→グリーンスローモビリティの導入なども今の話の延長線上にあるのではないか。大きな拠点だけでなく、小学校区のような地域単位の拠点も大切にし、公共交通や自家用車、タクシーなど多様な手段を活用しながら、柔軟な発想でまちづくりを進めていきたい。(会長)

○ 第 7 次計画では、デジタル技術を活用して、分野ごとに施策を切り分けるのではなく、分野を横断して連携させることで新しい価値を生み出す視点が重要だと考えている。
また、今後のアンケートではデータ分析まで活用できる設計を意識してほしい。ワークショップについても、自由な意見だけでなく進行役による取りまとめや論理的な整理が必要。さらに、計画の KPI

- (指標)と目標値が混同されがちなので、指標と目標値の区別を明確にし、進捗管理をしっかり行ってほしい。
- 個別の施策・政策があるが政策間連携は様々な繋がりを意識しながら引き続きしていく。また今後、行うアンケート、ワークショップ、KPIについても、改めて現時点の案が適当なのか検討していきたい。(事務局)
- 温暖化について、地球環境に優しいまちづくりをとあるが、専門家に設計してもらい緑を増やすような計画を盛り込んでいただきたい。
- 荒尾市では緑を増やすことは難しい面もあるが、環境省の重点対策加速化事業を活用し、太陽光発電や蓄電池の補助事業に取り組んでいる。市庁舎のカーポート型太陽光発電や、ごみ中継施設、し尿処理場などでも新電力会社と連携し、発電設備を設置している。設置費は事業者が負担し、市は電気を購入して20年で償還する仕組みとなっている。民間にもこの制度が広がっており、今後も太陽光発電と蓄電池の導入を進めていきたい。(事務局)
- 現在、周産期医療を維持するため有明医療センターと開業医が協力しているが、少子化の影響で今の体制を続けるのは今後さらに厳しくなると感じている。有明医療センターの経営状況が詳細に把握しづらいこともあり、市や県に支援を求めているが、総合計画の中でもこの課題を考慮してほしいとお願いしたい。
- 総合計画は今だけでなく、10年20年先の子どもたちに引き継ぐものだと考えている。市の若い職員も含めて皆で計画を作り、中間見直しも自分たちで行う意識を持って取り組んでほしい。引き続きご協力をお願いしたい。(会長)

8 その他

吉田課長が、議事録を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。次回、審議会の予定について8月中旬頃に予定。

9 閉会

吉田課長が、閉会を宣言した。

令和7年度 第1回荒尾市総合計画審議会 委員名簿

分野	団体名	役職名	氏名	備考
1	熊本大学	大学院先端科学研究院部 土木建築学専攻 準教授	田中 尚人 (新)	
2	学識経験者	九州看護福祉大学	リハビリテーション学科教授	中野 聰太
3		有明工業高等専門学校	校長	八木 雅夫
4		荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一
5	経済	一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳
6		玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	迎 五男
7		荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一 欠席
8	金融	肥後銀行荒尾支店	支店長	原田 晃志
9	デジタル	一般社団法人九州テレコム振興センター	専務理事	広岡 淳二 (新)
10	労働団体	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	馬場 清治
11	雇用	玉名公共職業安定所	所長	中村 由紀
12	職業訓練	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	坂本 和隆
13	教育	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞 欠席
14	医療	荒尾市三師会（荒尾市医師会）	会長	伊藤 隆康
15	スポーツ	荒尾市体育協会	会長	松尾 州裕
16	文化	荒尾市文化協会	会長	井上 泰秋
17	住宅	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	下田 次郎
18	結婚	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課長	隈部 啓司
19	福祉	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人
20	市民団体	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛
21		荒尾市老人クラブ連合会	副会長	辛島 正春
22		男女共同参画ネットワークあらお	代表者会代表	坂田 尚子
23		荒尾市行政協力会	会計	林 一夫
24	住民代表	荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣 欠席
25		荒尾市女性人材バンク	—	塚本 直子 (新)
26		公募委員	—	嶋村 秀則 (新)
27		公募委員	—	本田 良子 (新)
28		公募委員	—	堤 健 (新)
29	熊本県	県北広域本部玉名地域振興局	局長	坂口 啓介
30	行政	荒尾市	副市長	石川 陽一

※敬称略、順不同

※今回の委嘱で新たに参画いただいた団体・個人に(新)と記載しています。